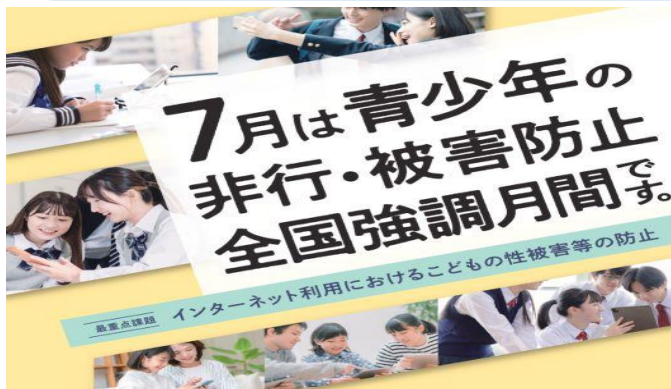


生涯学習情報紙

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第367号



毎年7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です。青少年を非行や犯罪被害から守るために、大人は何をすべきかを考えてみましょう。

今年度の最重要課題は、「インターネット利用におけるこどもの性被害等の防止」となっております。

7月14日は県民の日です

鹿児島県が誕生した明治4年の廃藩置県布告日が7月14日であったことに由来します。

県民が、郷土の歴史や文化を見つめ直し、郷土に対する理解と関心を深め、ふるさとを愛する心を育むことにより、自信と誇りを持って、より豊かな鹿児島県を築き上げることを期する日です。

=「11集落（いいシマ）学講座」=

大和村の歴史や文化に触れる楽しい講座です。だれでも参加できますよ。

（7月開催は、20日（土）10:00～12:00
防災センター 1F 学習室にて）

社会教育関係の行事について

第76回県体第65回大島地区大会

○ラグビーフットボール競技 7月13日（土）
～ 14日（日） 奄美フォレストポリスにて

○水泳競技 7月14日（日）
大和村民プールにて

※ 7/14に、スポーツ少年団競技別交換大会も同じ開催になります。村民のみなさんの応援をよろしくお願いします。



本(ふん)の読(ゆ)む年果てやねん？

八月踊りの「いまの踊り」私考

豊年祭に向けて「八月踊り」の練習をしようと公民館に集まった時のことですが、そこでいただいた歌詩集にあった『今ぬ踊り』に目がとまりました。

「“今” ちば、方言しや、“なま” あらん？」と不思議に思い、“今”の字をあてるのは違うのではないかと思いました。

すると、昨年・今年と大変な盛り上がりを見せた「ほこらしや奄美音楽祭」の1回目のパンフレットに『いまぬ風雲節』について次のように紹介されていました。「冒頭の“いま”に含まれる意味については、方言では“今(いま)＝なま”を表していることから、郷土史家の中でも解釈の仕方に違いがある。集落の発祥地を表す『上間(うんま)節』が元であり、“うんま”からの派生語“いーま”の名残が残っているのではないかという説や、南から吹く強風のことを方角になぞらえた“午(うま)”とする説…があるなど、謎の多い曲である。」とありました。私は『いまの踊り』や『いまぬ風雲節』の“いま”の“ま”を“場所や空間”をとらえると、“上間＝いい場所、上級な場所、神聖な場所”と考えられるのではないかと思います。

また、『大和村の近現代史 大和村誌資料集Ⅰ』（大和村誌編纂委員会）には、「大和浜では、滝之川山の山麓高燥地を“伊間”と呼ばれる。“伊”とは“良い”といった意味で、“間”は区画された一定の土地のことであった。即ち、“伊間”とは“良い屋敷”のことである。此所には滝之川山から流下される清水がある。此の付近を中心に先ず邑が建てられたと推われる。琉球王治下後は、此の伊間及びその付近は和家及びその分家や住家の居住地となり、…」とあります。

ですので、「いまの踊り」の「いま」は「今」ではなく、「上間」が音韻変化したか、「伊間」が「いま」になったのではないかと思います。「やまとま（大和浜）」の「ま」も「大和の人が住んでいたところ」が集落名の由来なら同じではないか、また「今里」の「今」も上述の通りではないかと思います。みんなのご意見やいわれをお聞かせいただければありがたいです。

話は変わりますが、「今の踊り」と言えば、そうですね、パリオリンピックの競技でもある「フレイキン」です。踊ったら格好いいですが、とても私は踊れません。八月踊りも踊ったら格好いいですよ。みなさん、八月踊りを奮って歌って踊りましょう。